

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202460		
法人名	医療法人社団 平世会		
事業所名	グループホームひろた		
所在地	長崎県佐世保市広田1丁目4番7号		
自己評価作成日	令和 1年 8月 12日	評価結果市町村受理日	令和元年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和元年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・開設して14年目を迎え、毎年中学、高校、短大生の職場体験や実習の受け入れを継続して行うことができている、併せて保育園児たちとの交流や介護教室を通してのつながり等、いずれも入居者様の生活に活気をもたらしてくれると同時に職員にとっても大きな励みとなっています。若い世代の人たちが医療や福祉に興味関心を抱き、そして私たちの事業所に足を運び入居者の方々とふれあいを通して多くのことを学んで行かれます。「介護」の大変さばかりではなく、その魅力や楽しさを一人でも多くの方に知って頂けるよう、スタッフ皆頑張っています。
 ・働きやすい職場環境がもたらすゆとりの時間を、入居者様とご家族とのコミュニケーションに有効に活用しながら信頼関係を築いていけるよう日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは医療機関を母体とし、通所リハビリテーションやデイサービス、居宅介護支援事業所を併設している。入居者は母体医療機関をかかりつけ医としており、医療と連携したサポートの充実が入居者や家族の安心感へと繋がっている。ホームでは地域住民に向けた介護教室の開催や認知症サポーター養成講座の実施のほか、高校生や短期大学の実習の受け入れや近隣保育所と交流の機会を持つなど地域との繋がりを深めており、ホームの持つ機能を地域に還元しながら日々の支援に取り組んでいる。施設長は職員にとって働きやすい職場環境が入居者への良質な支援提供に繋がることを踏まえ、職員意見を反映しながら業務の改善に取り組み、入居者本位のケアの実現に努めている。また、運営推進会議では参加者へヒヤリハットや事故報告の詳細を伝え、運営の透明化を図っている。今後も地域に根付いた風通しの良いグループホームとして大いに期待できるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の言葉の意味を分かりやすく要約、掲示し皆で共有し実践に努めている。	今年度は「『ピンチ』を『チャンス』と考え、皆で前を向いて働きやすい環境を作ろう」という理念のもとに立てたホーム全体の目標とともに、職員の個人目標をフロアに掲げて介護の実践に取り組んでいる。年度末には介護主任と職員とで支援内容を振り返り、次の目標設定に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺の散歩や当院受診の際に地域の方々と気軽に挨拶を交わすことが日常的に行われ、ありがたいことに近隣住民の皆さんにも「ひろたの人」と認識されている様子。	ホームでは地域住民に向けた介護教室を開催している。また、高校生や短期大学の実習やボランティアの受け入れを行うほか、地域の夏祭りへの参加など多岐に渡る地域との付き合いで地域との一体化に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年中学校の職場体験学習、高校のインターシップ、短大生の実習指導(今年度は留学生3名や)、認知症サポーター養成講座で地域に向き、これらの活動を通して若い人たちにも福祉・介護に少しでも興味関心を持って頂けるよう力を入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議には管理者の他、毎回スタッフが交代で出席し、ユニットの代表として責任を持って臨んでいる。各委員の皆さんにはいつも第三者目線で助言等を頂きながらサービス向上に繋げている。	運営推進会議には家族2名の参加のほか、地域住民や有識者、行政職員で構成されている。会議では身体拘束適正化委員会も併せて実施しており、議事録には詳細な内容の記録がなされ、運営の透明化を図っている。	運営推進会議議事録から参加者との意見交換や助言をサービス向上に活かしていることが窺える。会議での有意義な意見や質疑応答を議事録に残して振り返るとともに、議事内容を家族へ伝えることでの更なる運営の透明化に向けた今後の取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者が窓口になり行政担当者との連絡調整を行っている。また、グループホーム連絡協議会や東部ブロックの活動を通して情報収集や提案など、事業所間の協力関係が築かれている。	管理者は身体拘束適正化委員会についての相談や申請等での不明な点を行政担当者へ相談している。また、市のグループホーム連絡協議会の副会長を務めており、他のグループホームと意見交換をしながら協力体制を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体でコンプライアンスルールを掲げ取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行う場合は指針に基づいて対応している。また運営推進会議内でも委員会を設け毎回協議している。入居者の対応が重なった時などスピーチロックが目立つので、待つ頂く理由を必ず伝えるように心がけている。	運営推進会議の際に身体拘束適正化委員会を開催し、入居者への対応方法について詳細な情報を開示している。朝の申し送りの際に夜勤者から職員によるスピーチロック(言葉による拘束)の状況を報告し、拘束のない支援に向けて職員間で互いのやり取りや意識を日々共有している。また、拘束に関する外部研修を受講した職員から他職員へ内容を報告し、情報を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各フロアにはコンプライアンスルールを掲示し、スタッフ間のみならず、外部者に対しても事業所の姿勢や取り組みを知って頂きながら、入居者の支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設以来対象となる人はいないが、研修等を通して学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者と主任が窓口となり、時間をかけてわかりやすい言葉で説明するように心がけている。また改定の際は管理者から職員へ説明があり、全員が内容を理解した上で文書を示して家族へ説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際は入居者の近況報告、特に当日までの生活の様子や経過を職員全員がタイムリーに伝えることができ、家族とも気軽に意見交換ができる関係作りを心掛けている。	ホームでは担当職員だけでなく全職員が入居者の状況を把握しており、家族面会時や電話にて生活状況を報告している。入居者や家族との会話の中で把握した内容については業務日誌に記録し、職員間で情報共有を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今春2名の退職に伴い、代表者と管理者、併設事業所の主任らで早めに対策を協議し、体制が整うまでにユニット間の協力や併設事業所との連携を図りながら、業務の見直し、夜勤時間、手当の見直し等を行った。日頃より管理者が窓口となり、現場の意見を反映してもらっている。	管理者は質の良いサービス提供のためには雇用の安定と働きやすい職場環境を作ることを優先的課題と捉え取り組んでいる。今般職員2名の退職に伴い、改めて業務内容や勤務時間、手当などを見直し改善した経緯がある。管理者は職員意見を受け入れる窓口として職員がいつでも意見が出せるよう職場の環境整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康状態を第一に考えられ、体調を崩しても気兼ねなく休むことができるように、家庭と仕事の両立ができる環境整備に努めてもらっている。現場でも可能な限り定時退社を目指して働き方改革に知恵を出し合い取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の合同勉強会、GH連絡協議会主催の研修会の他、外部からの研修等の案内は随時管理者から提示され、現場の勤務体制に無理のない範囲で出席している。提出されたレポートは回覧を通して全員で内容理解をするようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会や東部ブロック研修会を通して、他施設の職員との交流が図られ、顔なじみの関係が保たれている。7月には東部ブロックの「男子会」を行い、より親睦を深めることができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新たな環境に慣れて頂くために予め担当のケアマネジャーからの情報を基に、事前訪問や施設見学の際に本人と家族から現在の状況、課題点等を情報収集し、安心して入居できるよう特に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の情報を基に、契約時には改めて家族の思いや意向等を聞き取り、入居者の生活に反映できるよう努めている。普段から全職員が家族とのコミュニケーションを意識して関わり良い関わりに繋げていく努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の生活歴や習慣や嗜好などの情報と日々の様子、表情や態度やサインを照らし合わせながら「その時」に適した対応ができるように、スタッフ間で申し送りや記録関係、会議などを通して共有して個別対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で本人の興味関心事に合う事柄を個々の可能な範囲でお手伝いして頂いたり、一緒に外気浴や肩を揉み合ったりしながら会話を楽しんだりしている。時として馴れ合い的になりがちなので言葉遣いや態度など意識するよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来られた際は、入居者の生活の様子を分かりやすく伝え、家族の意向や意見もその都度確認して共に支え合える関係を大事にしている。また体調不良などで医療機関を受診した際の連絡や行事の企画や参加にも協力を呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族面会の折に天気が良ければ一緒に散歩されたり、自室で一緒に食事をしたりおしゃべりをしたりと、それぞれの時間を大切にされている。併設のデイ利用の友人がお部屋を訪ねてくれたり、ボランティアの方々との交流なども馴染みの関係作りに繋がっている。	ホームでは併設のデイサービスに来所する入居者の友人との交流や、以前からの関係性が継続できるよう入居者の希望に応じた支援に取り組んでいる。また、入居者にとって馴染みの場所や親戚等の行事には家族と協力しながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の席の配置は本人の希望を優先しながらも、互いに良い関係が保てるよう考慮し、今では「自分の場所」として認識され、互いに笑顔で挨拶を交わっておられる。必要に応じて職員が介入して誰一人孤立することがないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療的な理由で退居された方に対して、スタッフの時間の許す範囲ではあるが時々面会に行かせて頂いたり、外出先で家族とお会いした際は互いに近況報告するなど普段から意識して関わらせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々9名の方々とコミュニケーションを図りながら、本人の要望や訴えに速やかに対応できるように、日常の中での気づき等をスタッフ、家族と共有し具体的対応に繋げる努力をしている。	職員は入居者との会話を通じて希望やホームでの生活についての要望を汲み取り、その際の気づきなどを職員間で共有し、家族にも報告している。その場で対応して解決したことや把握した内容は記録し、ケアプラン作成時に検討を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問や契約時にこれまでの生活の様子や現況、課題等を本人と家族の面談で確認し、併せて担当のケアマネジャーや主治医からの診療情報提供書を得ながら入居後もスムーズに生活できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活チェック表を基に健康状態を把握し、朝と夕方の申し送りでは報告や業務日誌等を通してその時々に適した介護サービスが提供できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前検討用紙やフロア会議で全職員の意見を収集し、担当者を中心に家族とも意見交換を行った上で現状に見合った無理のない実現可能な介護計画を作成するよう心がけている。	ホームでは担当者を中心に入居者・家族の意向を把握し、介護計画の3か月に1回のモニタリングや6ヶ月毎の短期目標・1年毎の長期目標の見直しを行っている。全職員がケア会議事前検討用紙に内容を記入し、ケア会議に諮っている。検討した内容はケアサービス検討シートに記録し介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌には個々の生活ぶりや入居者に関するスタッフ間での伝達事項、留意点など、些細な気づきをも記入し、日々の申し送りで確認をしてチームケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員不足で2階ユニットだけではシフトに無理が来そうなどときでも3階ユニットと協力して勤務体制を見直しサービスの維持に努めた。併設事業所との連携も合わせて柔軟で多機能的に対応ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々による演芸会、中学・高校・短大生のインターンシップや実習は、入居者の生活面に刺激を与えて下さり、また馴染みの関係作りにもつながっており、互いに次回の来訪日を楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は全員家族の意向で当院が主治医となっており、病状によっては他の医療機関を受診し、その際はスタッフも同行し情報提供を行うなど、家族にも安心して付き添って頂くよう支援している。また当院での内服薬の変更や定期健診の結果も面会時や電話連絡等でその都度説明している。	運営母体の医師が入居者全員の主治医となっており、2週間に1回定期受診を行っている。毎週木曜日にはグループホームリーダーから入居者全員に声を掛け、排便状態について確認し気付きなどを業務日誌に記載している。他科受診については場合によっては職員が同行するなど柔軟な支援を実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態を把握し当院との申し送りノートで情報共有を行い、急変時も速やかに対応できるよう連携を取って支援にあたっている。毎週木曜の午後は当院の看護師が施設に来て、直接入居者の様子等を確認したり、スタッフが医療面での相談をしてアドバイスをもらったりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	当院や他の医療機関に入院された際は定期的に面会に出向き本人の様子を確認したり、電話で医療関係者や家族から情報を得るなどして、退院に向けた体制を整えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には看取りに関する指針をもとに説明をするが、実際にそのような状態になられた際は主治医と当施設、家族と協議し可能な範囲で家族の意向に沿う形で対応方針を決めるようにしている。	ホームでは食事の経口摂取ができなくなったり浮腫が出現したりするなどを目安に主治医から家族へ病状を説明し、家族の希望を聞き取った上で医療との連携による看取り支援を行っている。看取り時には看取り期のケアプランを立案し支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応としてマニュアルを作成しているが、実際に対応したことのあるスタッフは限られていて、いざ当事者となった場合の不安感はある。会議や勉強会のテーマにあげシュミレーションする等、日頃から各自が意識を持ち備えておく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災想定避難訓練を法人全体で年2回実施している。防火対策として、年2回の設備点検、年1回の防火対象物点検の他に自主検査、終業時の火気点検を行っている。	ホームでは年2回法人全体での避難訓練を実施し、訓練状況が分かる写真や消防署からの指摘事項等を記録に残している。今年7月には近隣の河川氾濫を想定した避難計画を作成しており、自然災害についても高い意識を持ちながら日々の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や性格などを理解した上で、表情や口調、態度などその時の思いに合わせた言葉かけや、逆に言葉で伝えることが難しい場合はジェスチャーで表現する等その時、その方にとってわかりやすい対応を心掛けている。	ホームでは夜間のみ使用するポータブルトイレを日中バルコニーに移動し、清潔保持に努めている。職員は入居者の性格等を把握し、言葉掛けの工夫やその方に応じた会話や対応を行い、安心感を持てるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない日常の会話の中で本人の思いや要望等をくみ取り、それをスタッフ間で情報共有して入居者視点での対応を皆で心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れをなるべく崩さず、個々の体調や気分などを考慮しながら一人一人のペースに合わせて支援している。行事やスタッフの都合でその流れが変更する際は、事前に業務の調整を行い入居者にも事情を説明し、理解を得てから対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	離床後は髪を整え、衣服替えは毎日行い、その日の天候を考慮しながら本人に尋ね、調整をしている。汚れた際は随時交換し、いつも清潔感や身だしなみを心がけている。男性入居者は随時髭剃りを行っている。訪問美容は依頼があれば随時対応できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三月から業者に食材を配達してもらうようになったが、本人の好みや希望に応じてパン食に変更したり、味付けが薄い場合は濃くしたり、色合いが乏しいと感じたら野菜を添えてみるなど個別に対応している。	入居者との初回面談時にアレルギー調査を行い、アレルギーの有無を確認している。3月からは外部業者に食材配達を委託しているが、家族からの季節の果物の差し入れがあるなど、入居者は季節の食材を味わうことができている。また、春の彼岸には入居者と一緒に牡丹餅を作ったり食事の盛り付けや食後の食器拭きを行ったりするなど、残存能力を活かした支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日分の水分摂取量をチェックし飲水の確保に努めている。食事は個々の好み等に応じて量や器の大きさ、咀嚼力と嚥下状態に合わせた食事形態で提供し、できる範囲で家庭的な雰囲気の中で食を楽しんで頂けるよう取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず洗面コーナーへ促し、個々に応じて準備・介助・見守りを行い、義歯は洗浄剤で毎日消毒している。また歯科受診の対象の方家族の同意を得て訪問歯科で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎食後にトイレ誘導を行っているが、入居者の表情やしぐさ、態度などからサインを読み取り自尊心を傷つけないよう早めの対応やさりげない対応を心掛けている。終日紙おむつの方も排泄チェック表とも照らしながらトイレでの排尿を促すようにしている。	職員は入居者の排泄について一人ひとりの状況を把握し、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。また、入居者が罹患した病状への影響や体調の変化の指標としても重要であることを踏まえ、排便状況については特に詳細な記録を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれ下剤の服用内容が異なるため、「下剤服用者一覧表」をもとに調整しながら排便リズムを整えるようにしている。飲水量の確保、午前と午後の運動、食事摂取量のチェック等にて予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	予定表を基に入居者の体調や入浴前の状態、本人の意向、タイミングを観ながら週2回以上を目安に支援している。当日入浴できない方は清拭や翌日に変更するなど柔軟に対応している。	ホームでは24時間入浴できる体制を取っており、入居者の入浴予定日以外でも本人の希望に沿えるように準備している。職員は浴槽に柚子を入れて季節を感じるができるよう工夫するなど、入居者が日々入浴を楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中は前夜の睡眠状況やその時の体調に合わせてベッドやソファでの休養を勧めたり、昼食後は午睡を促し午後無理のないよう体調を整えている。居室の清掃やリネンの交換、サイドレール、棚、ドアの拭き上げ等、日々環境整備を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬紙に顔写真を貼り、ファイルに保管。服用前にファイルを観ながら薬名・効能・用量・日付・名前等に間違いがないかを2人で口頭・指さし確認し、本人にも確認してもらい服用する。薬の変更時には職員全員で申し送りを徹底し内容の把握をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の生活において、個々に合った役割や作業をスタッフと共同で行い、個性が発揮できるような場面作りを心掛けている。毎日コーヒーを飲むのが日課の方は、コーヒーを飲みながらのんびりとした時間を楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの体制の都合でドライブなどの外出支援ができていないが、季節に応じて近隣の散歩や外気浴は個別に随時行っている。館内ではエレベーターホールやバルコニーで日光浴や洗濯物の取り込みを一緒にするなど随時気分転換を図っている。	現在ホーム全体での外出は行っていないが、歩行可能な入居者と一緒近所のスターにおやつを買いに行ったり、個別支援で花見に行ったりするなどの外出支援を行っている。また、近隣の散歩やバルコニーで外気浴を行うなど、様々な場面で入居者ができるだけ外気に触れることができるよう工夫を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は現在全入居者分を職員が管理している。預かり金の残高が少なくなった際は家族に依頼をし入金時の金額を確認した上でサインを頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人から電話がかかってきた際は職員が取り次いでから本人と代わったり、時には代弁したり、また手紙の場合は内容を代読して本人に判りやすく伝えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の整理整頓は毎日欠かさず行い、それぞれの身体レベルに合わせてトイレを使い分けたり、食堂での席の位置は互いに不快な思いや混乱を招かないように配慮している。フロアと居室には温度計、湿度計を設置し、空調管理と換気を気を付けている。	職員は入居者の生活を妨げないよう留意して清掃を行っている。また、決められた時間だけでなく気付いた際に清掃することが職員に定着しており、トイレ掃除については特に頻回に行うことで入居者が不快に感じないように努めている。エアコンのフィルター等も定期的に手入れを行い、入居者の健康面に配慮した清潔な共用空間を保持している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつもの座席が「自分の居場所」として各自認識されているようで、いつもと同じ光景とその顔ぶれが安心感をもたらしてくれる。エレベーターホールの椅子に腰かけて誰からも干渉されずに一人で外を眺めて過ごす方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や家族との団らんを過ごすためにテーブルセットを持ち込まれ、面会時には居心地の良い空間と時間を過ごされている。ベッドの位置や高さは本人の状態や身体能力、動線を考慮しながら決め、家具や壁面の飾り付け等も本人や家族の意向で工夫されている。	職員はその人らしい居室となるよう部屋づくりの支援を行っており、明るく飾り付けする部屋やシンプルな部屋など、本人が落ち着いて自分らしく生活できる居室となっている。また、入居者が心地良く過ごせるよう清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のアセスメントを基に状態像を職員全員が把握し、それぞれの心身状態に応じた力を発揮してもらえるよう体操や脳トレ、手作りのリハビリ道具の活用など場面毎に工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果

3階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝事業所の理念を復唱して業務に就いているが、開設14年目を迎え今一度立ち止まり、理念の持つ意味を全員で再認識すべき時期なのかもしれない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設近隣の方々とは日常的に挨拶を交わし、夏祭りや介護教室など行事の開催の際は町内の回覧板でお知らせや、立て看板の案内等にも関心を示して下さるなど、逆に地域の方々に私たちが支えて頂いていると思う。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年介護教室を通して認知症の理解や介護予防について、地域の皆さんと共に学習をさせて頂いている。また認知症サポーター養成講座は近くの高校から依頼を受けてキャラバンメイトのスタッフが対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の活動報告を行う中で、委員の方々の第三者目線での意見を頂いた時は、それを現場で実践してみて、その結果を再び会議で報告して検証する仕組みができています。また私たちの取り組みに対し評価の言葉を頂けたときは職員のモチベーションにつながっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	指定に関することやケアに関する相談、グループホーム協議会との連携も含めて、管理者が市との連絡を取りながら関係作りに取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束等の適正化のための指針」を全職員で理解した上で日々実践に取り組んでいるが、入居者の対応が重なった時や自分自身に心の余裕がない時などにスピーチロックをしてしまうことがある。運営推進会議の適正化委員会を通して検証を行い現場にフィードバックさせている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア入口にコンプライアンスルールを掲示し、来訪者にも事業所の取り組みを知って頂くと共に職員も自覚するよう努めている。また施設内外の研修にも参加し、内容の理解と共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して学ぶ機会も少なく、また現在、対象者がいないので積極的に研修するに至っていないのが現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は主に管理者と主任が行っているが家族からの疑問や相談等があった時や改定時に説明することがあるので、全職員が契約と重要事項に関する対応ができるように準備はしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対しては職員の方から声をかけて入居者の近況報告や、具体的な事柄について投げかけてみたりして話しやすい雰囲気作りに配慮している。また運営推進会議に出席される家族の方からも意見や要望を頂くことがありサービスに反映することができている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者が会議に出席できない時もあるが、現場からの意見や提案、相談などあれば、主任を通して管理者に話し、タイムリーに対応してもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一時期スタッフ不足に伴い現場から環境・体制の見直し等の提案を行い、代表者から管理者を通して食事の提供の在り方や勤務時間の見直し、賃金のアップ等、スタッフの負担軽減と意欲につながる改善をしてもらえた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修(法人内の研修や事業所内の勉強会)の他、市のグループホーム連絡協議会主催の研修会に参加しスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム東部ブロック地区の施設同士の連携が取れており、研修の企画や交流会を通して互いにサービスの質の向上を意識した関係作りができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	昨年から今年にかけて入居者の入れ替わりがあったが、入居前のインテークや要望、困っていること等の聞き取りが不十分だったかもしれない。生活上の安心よりもどちらかと言えば管理上の安全対策を優先した介護を提供していたかもしれない。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前見学から入居申込みの段階より、差し障りのない範囲で家族より現状や今後の不安、困っていること等を伺い、入居後の支援に活かせるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みや事前の面談の時などに情報収集したり要望等を伺って必要な支援を見極めて、本人と家族が安心して生活を送ることができよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者ご自身が得意なこと、興味があるものを通して、それぞれに何らかの役割を持ってもらうことで、スタッフも含めて互いに協力して助け合うことができるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況やエピソードなどを気にかけてお話しするようにしている。行事等の際は家族に声掛けし、入居者と一緒に過ごす時間を作ってもらったり、個別には家族の支援の下、定期的にマッサージに出かけたり外食や自宅に立ち寄ったりと、共に支え合う関係ができています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の老人会の方々を演芸ボランティアで招いて交流したり、併設のデイの利用者とのおしゃべりに出かけたり、入居前からの行きつけの美容院に出かけたりと今までの関係が継続できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性が合わない人もいれば言動によっては不利な立場に置かれる方もいらっしゃるが、誘導する順番や座席の配置などを考慮しながらその都度対処している。テレビを見る時のメンバー、食事や作業の場面ごとのメンバーなど、その都度配置を変えながら孤立しないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者のご家族の方が施設に来訪され思い出話をしたり、外出先でお会いする時も互いに近況報告をすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	例えば排泄面において、夜間時は安全面も考慮してベッドサイドにポーターを設置し排泄支援をする場合に、この方が安心して眠れるという方もいれば、膝痛と夜間頻尿の方に同様の対応を促しても、自分の自由がないと訴える方もいる。本人の意向とリスクの狭間で悩むことがある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	衣類の着こなし方一つを取ってもそれぞれのスタイルがあるように、本人や家族から情報を聞き取りながら個々の過ごし方を一緒に考えていくように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、生活シート、サービス計画書に個々の状態を日々記録して現状把握をしている。活動が画一的にならないように他者と一緒に過ごす時間があれば一人で自室で横になって体を休める時間があるように、面々がそれぞれの過ごし方を送れるように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の支援の中で課題や支援の在り方、介護の標準化、統一すべき事項などあれば申し送りや会議等で確認、検討をしている。その際家族も交えて現状に即した計画が立てられるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきなどを個別の記録に残してはいるが、情報の共有が密にできていないことがある。記録以外にももっと意識的に口頭で伝え合い話し合うことで、より効果的にプランにも反映されると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイケア・デイサービスと連携して行事を企画したり、外部からのボランティア演芸に合同で参加するなど、当事業所単体で考えるのではなく、併設事業所との連携協力も得ながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族の協力の下、在宅時から継続してマッサージ店や美容室を利用したり、地域の方々による演芸ボランティアの観覧、保育所の園児らとの交流の機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の村上医院との連携により日々の健康管理に努めている。他の医療機関を受診する際は、家族に付き添ってもらうようにしているが、経過や現状を口頭やメモで伝達してスムーズに医療を受けられるように支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週ごとの受診以外に、医療連携体制の下、毎週木曜の午後には村上医院の看護師に来てもらい、施設内で入居者とコミュニケーションを取りながら状態確認をしたり、スタッフからの相談に応じるなど連携が図られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先のソーシャルワーカーや担当者との情報交換をしながら、家族ともその都度確認を取りながら退院後の受け入れがスムーズにできるように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状変化があった際は主治医より家族に説明があり、今後の治療方針等を協議しグループホームでの今後の対応についても併せて話し合う。その後もこまめに家族へ本人の状態を伝え、共有しながら支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に即座に対応できるように救急セットなど一つにまとめて備えているが、実践力として全員が身に付けているかとなると、実際に急変時の対応を経験した者とそうでない者との差があり、定期的な訓練を行う必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	従来の防火訓練に加え、自然災害時の訓練も取り入れるようにしている。加えて火災予防対策としては、年2回の設備点検、防火対象物点検、年1回の消防査察の他、現場では終業時に火気点検を毎日行うなど全職員で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日中はトイレ使用、夜間は安全面を考慮してポーター対応のケースの方に対して、夜中の排泄介助に職員に遠慮して「ひとりであるから大丈夫！」との申し出に対しこちらは転倒の二文字が頭をよぎり応じることはできない。こんな時本人の人格やプライバシーを損ねているのではと考えさせられる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを言葉で表現することが難しい方に対しては、日常生活の言動をくみ取ったり、家族から情報を頂くなどして対応しているが、直接本人に尋ねる際も疑問形や選択肢を使って確認するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の日課はあるが、基本は入居者一人一人のペースに合わせて支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗面時にはご自分で髪を整えたりクリームを塗ったりする方もいれば、職員から促されて鏡を見ながら身だしなみに気付く方もいる。恰好や姿勢を日頃から気を付けている方は、フロア内の姿見をチラッと見ながらチェックされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1名の入居者は毎日食事の盛付けを手伝って下さり、他の入居者には食器やお盆を拭く作業を手伝ってもらっている。また青果店を営む家族から旬の果物を頂いた時は皆さんで季節を感じながら食を楽しんで頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部発注となり栄養バランスの取れた食事を提供できているが、味の好みもあって残食が増えた方もおり、それぞれの好みに合わせて毎食、味を調整している。水分摂取量は一日を通して確実にとれるように対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診の対象者は定期的にクリーニングしてもらっている。自分で義歯の洗浄ができる方でも不十分な面もあり、スタッフが義歯の状態や口腔内の状態を確認させて頂くこともある。適宜、往診時にはアドバイスを頂けるので助かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	腰痛で移動が困難の際は自室内ポーターで対応し負担軽減を図ったり、夜間の排尿の量に応じて尿取りバットの種類等を検討して失敗を防ぎ安眠につなげたりと、個々の状態に適した支援を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫の他に、午前と午後に行う体操では便秘改善も意識しながら全員で楽しく体を動かすよう心がけている。また個別の排泄状況チェックも毎日行い、個々の状態に合わせた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	男性スタッフの介助はダメな方もいるので女性スタッフ対応したり、入浴を促しても拒否されたり気分が乗らない時は無理をせず時間をずらすか別の日にお誘いするなど、本人の都合に合わせてるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠につながるように日中はできるだけ活動や離床を促す人もいる。横になって体をちょっと休めたい人など様子を伺いながらその都度対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬チェックカードで内容や用量等を注意して確認している。また薬の変更があった時は必ず看護師に説明を受け理解するようにしている。点眼薬について保管場所などで注意力が欠けている面もあった。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業やレクの向き不向きを鑑みてそれぞれの役割を捻出して少しでも役割を持って取り組めるように実施している。行事やボランティアの方々との交流、ドライブなど楽しみごとを少しでも多く取り入れたいと努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に戸外へ出かけたり、ドライブに出かけ季節感を味わってもらうなど対応に努めているが、本人の興味、関心に加え体力面で制限が出る場合やスタッフの人員不足によりその機会が少なくなってきた感もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理ができる方で必要な物品がある場合は、職員が代わりに買い物したり、一緒に買い物に出かけ本人に実際にレジで支払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話を掛けたい方には、椅子を準備しゆっくり話ができるようにしている。その際は予め職員が家族に要件等を伝えるなどして会話がスムーズにできるような配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーの壁面には共同で仕上げた季節ごとの貼り絵を飾り、時間帯に応じてブラインドやカーテンで遮光を、空調や換気で室温管理を調整するなど、皆さんが快適に過ごせるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓コーナー、テレビコーナーが主な共有空間、その中で座席が定位置の方もいるが、席の配置はスタッフがその時の様子を観ながら柔軟に対応している。日中の活動に関しては強制することなく自由な雰囲気作りを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時はこれまでの本人の生活スタイルや身体の状態に応じたベッドの位置や家具、愛用品などのレイアウトを本人と家族の意見を伺いながら決めていくが、居室の居心地や使い勝手に関しては生活する中で柔軟に対応をしていくようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー内には壁時計が三か所設置してあるが、入居者には文字が小さく見えにくい部分もある。トイレ内には終わったらボタンを押して知らせてもらう貼り紙があり、毎回口頭でも伝えてはいるが、安心して頂けるよう配慮をしている。		